

ヒツジの“ハル”の安楽死について

個体名:ハル

性別:メス

生年月日:平成 23 年(2011 年)生まれ 10 歳

来園月日:平成 24 年(2012 年)2 月 18 日

ヒツジの“ハル”は、とても優しく穏やかな性格で、これまで子供動物園内のヤギ広場で多くの皆様とふれあい、長い間可愛がっていただきました。また、その優しい性格から、一緒に飼育しているヤギたちの遊び相手になったり、仔ヤギを背中の上に乗せたりする様子は来園者の方々を笑顔にしていました。

2021 年 4 月 13 日に左前肢を軽度にかばう様子が見られましたが、左前肢以外に問題はなく、採餌量や運動量は通常でした。翌日からは痛み止めや抗生剤の注射をしたり、患部に薬を塗るなどの治療を開始しました。

4 月 16 日には通常与えている乾草とペレットの採餌が減り、比較的好むリンゴ・ニンジン・サツマイモを与え始めましたが、その後リンゴなどの採餌量も徐々に落ちていきました。そのため、血液検査を行い皮下補液などの治療を開始しました。この時は、青草を与えると好んで採餌したため連日与えるようにしました。

4 月 23 日になると、起立できなくなり終日横臥(横たわること)の状態が続き、青草の採餌量も落ちていきました。自力で体勢を変えることができないために自力で飲水ができず、日毎に褥瘡も増えていきました。そのため、毎日数回体勢を変えたり、水を飲ませたりする他、流動食(リンゴなどをミキサーにかけたもの)の強制給餌も開始しました。

同日行ったエコー検査やレントゲン検査の結果からは、胸水が溜まっている可能性が出てきたため、利尿剤による治療や終日の点滴治療を開始し、4 月 28 日からは酸素吸入を開始しました。

“ハル”が横臥の状態となってからの経過や、治療の効果が思わしくないことを考えると、今後起立や回復する見込みはなく、褥瘡による痛みや呼吸状態の悪化による苦痛が増していくことが予想されました。このことについて園内で協議を重ねた結果、5 月 1 日に、薬剤による安楽死処置を実施するに至りました。

盛岡市動物公園 ZOOMO の安楽死の判断基準

- ①治療を行っても回復が見込めない
- ②生活の質が低下したままである
- ③症状の進行により苦痛、痛みを伴う

これら 3 つの判断基準に従って園内で協議

【治療経過について】

2021年

- 4月13日:左前肢かばう。元気食欲あり
- 4月14日:左手根関節の腫脹あり。歩行は可能。消炎鎮痛剤の注射投与開始(~17日)
- 4月16日:食欲低下。血液検査(軽度肝障害)抗生剤の注射投与を追加
- 4月18日:関節液採取・検査。細菌培養検査。発熱あり。皮下補液等開始
- 4月20日:さらに食欲低下傾向。患部のレントゲン検査(骨には大きな異常なし)
- 4月21日:関節内ヒアルロン酸注入。皮下補液等継続
- 4月22日:関節の改善なし。血液検査(4月16日と大きな変化なし)
- 4月23日:全身状態悪化傾向。エコー検査(心臓付近に軽度の液体貯留を疑う)
- 4月24日:横臥となる。呼吸浅速。エコー検査(肺野に異常)利尿剤の注射投与等追加
- 4月26日:四肢は動かす。褥瘡あり。静脈点滴開始、
- 4月27日:血液検査実施(肝数値悪化、脱水など)呼吸状態悪化傾向、抗生剤変更等
- 4月28日:呼吸状態悪く酸素吸入。褥瘡悪化傾向
- 4月30日:努力性呼吸あり。回復の兆し見えず。静脈点滴、酸素吸入継続。
- 5月1日:麻酔下での薬剤による安楽死を実施

【解剖検査の結果について】

死後の解剖検査では、肺出血や心冠部(心臓上部)の軽度液体貯留、臓器の褪色(貧血や循環不全)、気管への消化管内容物の逆流(誤嚥)、小腸病変(肥厚硬化による狭窄)などが見られました。痛みのあった左手根関節は関節液が貯留し炎症を起こしていました。起立不能からの循環不全が状態悪化の原因として考えられますが、さらなる原因精査のため、今後病理組織検査を実施する予定です。

盛岡市動物公園 ZOOMO
園長 辻本恒徳